平成31年度　山口県立下関西高等学校（定時制）　学校評価書　校長（山根　敬二）

1　学校教育目標

教育目標・・・・・・校是「天下第一関」の下、確かな学力・豊かな心・健やかな身体の育成と一人ひとりの個性の伸長を図り、
自立した社会人として次代を担うに相応しい人材の育成を目指す。

中・長期目標・・・①生徒理解を深め、一人ひとりを尊重しながら個性を活かす教育に努める。
②生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、学業と就労の両立を支援する。
③生徒の基礎学力の充実を図り、生涯学習社会の一員としての素養を身に付けさせる。
④生徒の自主的・実践的態度を育成し、社会の良き構成員を育てる。

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

①【学校運営】
■「重点を置いて取り組む目標」や「チャレンジ目標」の浸透を図る工夫を検討する。
■担任や授業担当者の過度な負担を軽減できるよう協働体制の深化を図る。
■開かれた学校づくりの推進を目指して、「いきいき定時」やホームページを活用し、各分掌からの情報発信の充実を図る。

②【教務】
■授業評価について引き続き継続し、教員一人ひとりが授業改善等に活用する。
■生徒の特性や経験に応じた指導技術について、継続的に研究を図る。
■年度末の家庭学習日の見直しを図る。

③【生徒指導】
■月1回の生徒情報交換会を継続し、教員間の情報共有を行い、養護教諭やSCとの連携を図る。（SSWの活用についても視野に入れる）
■引き続き指導の必要な生徒にきめ細かな指導支援を徹底し、未然防止に努める
■生徒主体の学校行事について、教員の共通理解の下、計画的な指導を徹底する。
■教員やクラスメートに対する生徒の言動について、教員一丸となって毅然とした姿勢で指導を徹底するとともに、保護者への協力を図る。

④【進路】
■進路希望調査を各学期に1回実施し、進路意識の醸成とニーズの把握を図り、進路ガイダンスの実施にも活用する。
■「いきいき定時」を活用し、奨学金情報を含めた進路情報について、保護者への浸透を図る。
■ハローワークや地域若者サポートステーション等外部機関との連携を取り、生徒の特性に応じた就職支援を図る。

⑤【業務改善】
■分掌間及び教科等の業務量の総合的な検討を図る。各学期末や特定の時期について業務負担が過重とならないように検討する。
■文書や資料の整理・保管方法を改善するための組織的な取組について検討する。

3　本年度重点を置いて取り組む目標

① 教職員の協働体制強化及び業務改善
② 一人ひとりに応じた学習指導の充実による基礎学力の向上
③ 生徒理解に基づく生徒指導の充実による基本的生活習慣の確立及び規範意識の高揚
④ 4年間を見通したキャリア教育の確立による進路意識の向上

【H31年度生徒チャレンジ目標】
〇基本的なマナーと学習態度を身に付けよう。　　〇仲間への思いやりをもち、お互いの良さを認め合おう。

4　自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	5　学校関係者評価 学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	教育目標達成に努力し、実現していく学校づくりを進める。	教育目標や教育方針の共通理解を図り、互いに協力する意識を高める。	4：共通理解が十分図られ、教員が協力して目標に向けた活動ができた。 3：共通理解がほぼ図られ、教員個々の取組で、目標を意識した活動ができた。 2：個々の教員が目標を理解してはいるが、目標を意識した活動はできなかった。 1：共通理解が全く図られず、教員の方向がばらばらであった。	4	・教職員の連携の下、学校行事を始め、学校教育活動全体を通じて生徒の自己肯定感を高める取組を行う。 ・毎日の職員会、生徒情報交換会で情報共有と指導方針の共通理解を図り、全教職員で協働して支援を必要とする生徒に対応した。 ・学校評価アンケートにおいて、生徒からは15項目中13項目で肯定的な回答が増加し、減少したものはなかった。	・特になし。	A
	開かれた学校づくりを推進するとともに、地域、保護者と連携を深める。	毎月「いきいき定時」「保健だより」を発行し、学校情報を積極的に発信するとともに、公開授業、体育祭、保護者会（個別懇談）等を通して保護者との連携を深める。	4：保護者の協力が十分得られ、連携が深まった。 3：保護者の協力がこれまでよりは得られ、連携が深まった。 2：保護者の協力がこれまでほど得られず、連携が十分ではなかった。 1：保護者の協力が全く得られなかった。	3	・「いきいき定時」「保健だより」「学校評価アンケート」を発行し、学校情報を提供した。 ・公開授業は参加者が少数であった。体育祭では、多くの参加者があり盛況であった。 ・保護者会を予定通り実施し、担任と保護者の意思疎通が図れた。 ・学校評価アンケートにおいて、保護者からは15項目中3項目で肯定的な回答が増加したが、7項目で減少した。	・生徒が楽しい高校生徒が遅れるよう、職員全体で取り組んでいる。	B
	教科指導の充実により、生徒一人ひとりの基礎学力の向上を図る。	生徒による授業評価を年2回実施し、授業の工夫・改善を行う。	4：生徒による授業評価を実施し、授業の工夫改善を行うことができた。 3：生徒による授業評価を実施し、授業の工夫改善に活かされた。 2：生徒による授業評価を実施したが、授業の工夫改善は十分でなかった。 1：生徒による授業評価が実施できなかった。	3	・年2回の授業評価を有効に活用し、授業の工夫・改善が継続的に行われた。 ・学校評価アンケートの「学校職員は、わかりやすい授業の工夫に努めている」の項目で、生徒の肯定的な回答が大幅に増加した。 ・さらに、基礎学力の向上に向けた指導方法について検討する。	・積極的に授業の工夫・改善が行われている。	B
		学習指導要領の趣旨を踏まえ、学び直し等、生徒の実態に即した授業実践を行う。	4：該当する教科・科目で趣旨を踏まえた授業実践を行った。 3：該当する教科・科目で趣旨を踏まえた授業実践をある程度行った。 2：該当する教科・科目で趣旨を踏まえた授業実践を行ったが十分でなかった。 1：該当する教科・科目で趣旨を踏まえた授業実践を研究していく必要がある。	3	・学習経験や到達度の多様な生徒に対しての対応が適切に行われている。今後とも継続的な改善を行う。	・特になし。	B

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務		教員相互や保護者等への授業公開を実施し、指導技術の向上に努める。	4：教員相互の授業公開や一般授業公開等を実施し、指導技術向上ができた。 3：教員相互の授業公開や一般授業公開等を実施し、指導技術向上に活かされた。 2：教員相互の授業公開や一般授業公開等は実施したが、指導技術向上は十分でなかった。 1：教員相互の授業公開や一般授業公開等が全く実施できなかった。	3	・9月末の2日間に授業公開日を設定し、保護者や教育後援会の方の見学・行事参加を得た。参加者の感想は、すべて好意的なものであった。 ・教員相互の授業見学は十分ではなかった。	・保護者との連携・、情報公開が十分に行われている。	B
	生徒の基礎学力の定着を図る。	欠点保持者に対する個別指導を実施し、年度末の欠点保持者を減少させる。	4：組織的な取組により、大幅に改善された。 3：組織的な取組により、一定の成果があった。 2：組織的な取組を行ったが、成果は十分ではなかった。 1：個別指導は全くできなかった。	3	・組織的な取組ではなかったが、欠点保持者に対する個別・継続的な指導が行われ、大きく改善された。	・特になし。	B
	生徒の出席率を高め、授業を大切にする教育を推進する。	早い段階から欠課時数調査を実施し、本人・保護者への連絡・指導を徹底する。	4：調査が機能し、早めの指導をした結果、半数以上の生徒に改善が見られた。 3：調査が機能し、早めの指導をした結果、数名の生徒に改善が見られた。 2：欠課時数の連絡会を開いて早めの指導をしたが、改善は十分でなかった。 1：欠課時数の連絡会を開いて早めの指導をしたが、改善できなかった。	4	・適切な時期から欠課時数調査を開始し、継続しながら教員間で情報共有をきめ細かく行い、本人・保護者への連絡・指導を行う。その結果、出席率は高い状態で維持でき、卒業・進級に影響がなかった。	・特になし。	A
生徒指導	生徒理解を深め、生徒の支援体制を充実させる。	教員連絡会での情報交換や養護教諭・スクールカウンセラーとの連携により、生徒の支援体制を充実させる。	4：生徒の支援体制が充実した。 3：生徒の支援体制がかなり充実した。 2：生徒の支援体制があまり充実しなかった。 1：生徒の支援体制が全く充実しなかった。	4	・生徒情報交換会を6回実施した。全生徒についての情報を全教員が把握することによって、生徒の支援体制を充実させることができた。 ・養護教諭、スクールカウンセラー、児童相談所とも連携し生徒の指導に当たることができた。	・家庭の状況が複雑であったり厳しい状況の生徒については、SSWや市役所等との連携を積極的に行う必要がある。	A
	問題行動の未然防止に努める。	出身中学校、前在籍校や関係諸機関、保護者との連絡・連携を密にしながら、生徒個々の性格や行動の特徴を把握する。	4：年間を通じて互いに連絡を取り合い、生徒の最新情報を細部に渡って収集できた。 3：従前に増して連絡は取り合ったが、生徒の指導に活かすことは少なかった。 2：問題行動等が起きた後に連絡を取り、未然防止のために努めることは少なかった。 1：連絡を取ることはほとんどなかった。	4	・定期的な個人面談、保護者懇談会、全校集会時においての諸注意、生徒への情報提供により問題行動等の未然防止に努めた。その結果、本年度は問題行動はなかった。 ・今年度も不審者情報が多かったが、市内の高等学校等の生徒指導関係者や警察等の関係諸機関と連携して、対処に当たる。被害者はなかった。 ・出身中学校から情報を入手し、それを基に指導に活かすことができた。	・特になし。	A
		「いじめ」に関する実態調査を通じて、「いじめ」は絶対に許さない厳しい態度で臨む。	4：実態調査を通じて「いじめ」の根絶に向けた取組が充実した。 3：実態調査を通じて「いじめ」の根絶に向けた取組がかなり充実した。 2：実態調査を通じて「いじめ」の根絶に向けた取組がある程度充実した。 1：実態調査を通じて「いじめ」の根絶に向けた取組があまり充実しなかった。	4	・1学期・2学期ともにアンケート調査・個人面談を実施し、実態を把握したが、「いじめ」は起きていない。 ・来年度以降も適切な防止指導と定期的な実態調査に努め、「いじめ」は絶対に許さないという強い態度で臨む。	・特になし。	A
	級友とのかかわりを大切にしながら主体的に活動する場面を設定し、生徒の自主的・実践的態度を育成する。	体育祭やクラスマッチ等、生徒が主体的に活動する学校行事の充実を支援する。	4：生徒が主体的に活動し、十分な教育効果が上がった。 3：生徒の主体的活動がやや欠けたが、教育的効果があった。 2：教育的効果はあったが、教員主導に終わり、盛り上がりに欠けた。 1：生徒の参加率も少なく、教育的効果は上がらなかった。	4	・1学期にクラスマッチ、2学期に体育祭・文化祭を実施した。生徒会役員を中心に種目やスケジュールを生徒主体で考案・進行させ有意義な行事となった。 ・上記以外の学校行事にも生徒は主体的に取り組み、年々真剣さが増している。	・学年数・生徒数が減少していく中での取組の再検討・工夫をして欲しい。	A
		大掃除、体育施設の塗油作業、生徒会を中心とした校舎内外の美化活動を実施する。	4：学期に2回以上、全体奉仕活動を行い、校舎内外の美化活動も実施できた。 3：学期に1回程度、全体奉仕活動を行い、校舎内外の美化活動はある程度継続して実施できた。 2：全体奉仕活動は行ったが、校舎内外の美化活動は実施されなかった。 1：全体奉仕活動も校舎内外の美化活動も実施できなかった。	4	・毎週水曜日の教室清掃作業も全学年熱心に行った。また、ゴミの分別も適正に行った。 ・生徒会役員を中心としたエコリーダー活動を毎週行っており、学校周辺の清掃活動を主に行った。住民からの評判は良い。 ・毎学期末に大掃除の時間を設け、教室や更衣室・食堂・職員室等の清掃活動をした。ほとんどの生徒が一生懸命に取り組んだ。 ・2学期は体育館・卓球場・武道場のワックス掛けの奉仕作業を行った。	・学年数・生徒数が減少していく中での取組の再検討・工夫をして欲しい。 ・社会に出て最も大切な内容であり、今後も力を入れて取り組んで欲しい。	A
		部活動の活性化に努める。	4：生徒の実態や要望を適切に把握した部活動の設定により、活発な取組がなされ、定通体育大会においても十分な成果が上がった。 3：生徒の実態や要望を適切に把握した部活動の設定により、活発な取組がなされた。 2：生徒の実態や要望を反映した部活動の設定が不十分であったが、ある程度の活発な取組がなされた。 1：生徒の実態や要望を反映された取組がなされず、部活動の活性化にはつながらなかった。	4	・年度当初に部活動希望調査を実施し、参加する部活動を決定した。定通大会のおよそ1週間前から全員練習を開始し、熱心に取り組んだ。また、普段も放課後に練習を希望する生徒はほぼ毎日取り組んだ。その人数は年々増えている。 ・上記の活動により、今年度はバドミントン部と卓球部が全国大会に出場した。また、秋の定通大会でもどの種目も好成績を残した。	・学年数・生徒数が減少していく中での取組の再検討・工夫をして欲しい。 ・他校との交流の場となり、励みになるので、積極的な活動を継続して欲しい。	A
	健康教育・安全教育の推進を図る。	外部講師による講話等を行い、規範意識や多様な危機に対応できる資質を養う。	4：外部講師を招聘して講話等を実施し、多くの生徒の健康安全管理意識が向上した。 3：外部講師を招聘して講話等を実施し、一部生徒の健康安全管理意識に変化が見られた。 2：外部講師を招聘して講話等を実施したが、ほとんど効果がなかった。 1：外部講師を招聘しての講話等は、実施できなかった。	4	・「情報モラル教室」、「交通安全教室」、「高校生のための性教育講座」、「薬物乱用ダメ。ゼッタイ」等で外部講師を招聘して実施した。現在、話題・問題となっている事柄を中心に講話を行っていただいた。多くの生徒は熱心に聞き、その感想も毎回きちんと書いて提出した。	・外部講師は、生徒の希望する分野を調査し、より興味のある内容にして欲しい。	A
進路指導	生徒一人ひとりの進路意識を高める進路指導を充実する。	4年間を見通したキャリア教育の計画に基づいて各学年での進路指導を行う。	4：計画通りに指導が行われ、ほとんどの生徒の意識が高まった。 3：ほぼ計画通りに指導が行われ、多くの生徒の意識が高まった。 2：ある程度計画通りに指導が行われ、一部の生徒の意識が高まった。 1：計画通りに指導が行われず、生徒の意識も高まらなかった。	3	・進路指導部を中心とし協働してキャリア教育を計画通りに行う。 ・進路指導部としては、進路希望調査等を通じて生徒や保護者個々の希望やニーズの把握に努めた。さらに、タイムリーな情報提供を行いながら、担任との連携をより深める必要がある。 ・次年度は、それぞれの学年に応じたキャリア教育を行えると良い。	・特になし。	B
		外部講師を招いた進路ガイダンスを年間3回実施する。	4：外部講師を招いて進路ガイダンスを実施し、ほとんどの生徒の進路意識が向上した。 3：外部講師を招いて進路ガイダンスを実施し、一部生徒の進路意識に変化が見られた。 2：外部講師を招いて進路ガイダンスを実施したが、あまり生徒の意識に変化が見られなかった。 1：外部講師を招いた進路ガイダンスは実施できなかった。	3	・本年度分掌業務が一人体制となり、事前準備や連絡調整等十分とは言えなかったが、所期の目標は概ね達成された。	・特になし。	B

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評 価 基 準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
	生徒一人ひとりの希望進路の実現をサポートする。	希望進路を実現するために、進路希望調査に基づいて、生徒の適性・能力を考慮しながら、個別指導や面談を実施する。	4:進路希望に応じた指導を実施し、多くの生徒の進路が実現した。 3:進路希望に応じた指導を実施し、一部の生徒の進路が実現した。 2:進路希望に応じた指導があまりできず、生徒の進路はあまり実現しなかった。 1:進路希望に応じた指導ができず、生徒の進路は実現しなかった。	3	・個別指導や面談をきめ細かく行い、多くの生徒の進路が確定した。しかし、年度末に進路変更や進路未定の生徒が出るなどし、保護者、生徒、担任との連携を更に深める必要がある。 ・学校評価アンケートにおける「個に応じた進路指導」の項目において、生徒・保護者共に肯定的な回答が増加した。 ・例年になく奨学金を活用しての進学希望が増え、奨学金関係を教務部に移したことで滞りなく事務作業、進路実現がなされた。	・進路変更があるのは仕方ない。取組は十分行われている。	B
業務改善	学校の組織等 学校の組織及び協働体制等の強化を図る。	職員会議を毎月実施する。研修機会の増加に努力する。	4:職員会議での協議及び研修機会が充実し、多くの分野で具体的取組の成果が認められた。 3:職員会議での協議及び研修が行われ、いくつかの分野で具体的取組の成果が認められた。 2:職員会議での協議及び研修があまり行われず、具体的な取組はあったものの成果は認められなかった。 1:職員会議での協議及び研修が機能せず、具体的取組は行われなかった。	2	・職員会議を毎月定期的に実施し、協議及び研修を行い、協働して学校行事や生徒指導に取り組むことができた。 ・研修については、全日制の校内研修会に相い乗りし、参加を促したが、十分な参加は得られなかった。	・取組は十分行われている。全日制での共同開催の場合、結果はやむを得ない。	C
	日常的な業務 データや資料を整理し、作業効率を高める。	分掌業務を収めた電子データフォルダの整理と紙媒体の資料の整理を進める。	4:十分に整理できたことにより、作業の効率化をかなり進めることができた。 3:ほぼ整理できたことにより、作業の効率化をある程度進めることができた。 2:整理があまりできず、作業の効率化をほとんど進めることができなかった。 1:整理ができず、作業の効率化を全く進めることができなかった。	2	・電子データフォルダの整理は十分にできてはいないが、作業に支障はなかった。 ・規模が小さく、2年後に廃課ではあるが、誰が担当しても作業がしやすい環境を整える必要がある。	・特になし。	C
	勤務状況 勤務時間の適正化を図る。	勤務の割振りを適正に行い、超過勤務をなくす。	4:ほぼ8割の教員が勤務時間終了後15分以内に帰宅できており、十分達成できた。 3:約6割の教員が勤務時間終了後15分以内に帰宅できており、ほぼ達成できた。 2:半数以上の教員が勤務時間終了後15分を超えても帰宅できず、徹底できなかった。 1:計画のみに終わった。	4	・勤務終了時間後15分以内に帰宅できた教員の割合は96%で、目標を十分達成できた。(1月末までの集計結果より) ・時間外業務時間は一人当たり月平均6時間で、適正な勤務時間であった。(1月末までの集計結果より)	・特になし。	A

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

〇教職員の連携の下、学校行事を始め、学校教育活動全体を通じて生徒の自己肯定感を高める取組を行う。
〇毎日の職員会、生徒情報交換会で情報共有と指導方針の共通理解を図り、全教職員で協働し及び外部機関とも連携し、支援を必要とする生徒に対応した。
〇学習経験や到達度の多様な生徒に対して生徒の実態に即した授業実践を行い、生徒の授業に対する肯定的な回答が大幅に増加した。
〇日々の練習の積み重ねにより、今年度はバドミントン部と卓球部が全国大会に出場した。また、秋の定通大会でもどの種目も好成績を残した。
〇計画通り外部講師を招聘し、進路意識、規範意識、健康安全管理意識、人権感覚等の向上を図る。
●教員相互の授業見学や教員研修は十分でなかった。
●計画通り進路指導ガイダンスを３学年合同で年３回実施した。さらに、それぞれの学年に応じたキャリア教育をて行えると良い。

7 次年度への改善策

・定時制閉校まで残すところ２年、学ぶ姿勢のある生徒の将来が少しでも良いものになるよう、生徒一人ひとりに対して取組を継続する。
・学年数・生徒数が減少していく中で、学校行事等の取組の再検討・工夫をし、生徒にとって学校生活が楽しく有意義なものとなるよう取り組む。
・適切な「いじめ」防止指導と定期的な実態調査に努め、「いじめ」は絶対に許さないという強い態度で臨む。
・定時制独自の教員研修、あるいは、全日制の大きな集団における授業研修や危機管理研修において、少なくとも年２回全員が行う。
・キャリア・パスポートの作成やそれぞれの学年に応じたキャリア教育の時間を確保する。